

私はまた今年もこの場で皆様と一緒にこのような重要な会において一緒できるのを大変光栄に思います。皆様にまずお詫びを申し上げなければならないのですが、このスピーチの後、私はどうしても外せない用事があり、このホールから退場しなければなりません。様々な方へのご挨拶をしたいのですが、まず、私の前任者であり政府における前職務において同じ要職に就いていた友人のファッシーノ下院議員は、日本とイタリアの企業間の関係が商業的のみならず、経済的な意味でも利潤をもたらすいかに重要なものであるかよくご存じのはずです。両国の経済は戦後一緒に成長してきました。そして十年以上前には経済的にも様々な取引があり、交流が最も盛んになりました。ただ、この交流のレベルは過去 10 年間には十分に成長してきたとはいえません。世界がよりグローバルになり、発展にも、以前には我々の国の成長についてくることができなかった他の大陸の国々が関与するようになってきたのです。ですから我々自身も過去を評価するだけでは不十分で、イタリア、ヨーロッパ、そして日本の協力関係をより実りの多い新しい段階に進むための行動を起こさなければならなくなってきました。

これからは、企業や経済界からの必要なアドバイスをもらいながら、我々がやらなければならないことを分析していくことです。日本は過去 10 年間で、ヨーロッパ製品およびイタリア製品の販路としての重要性を失ってきてしまいました。関税は低いものの、国際標準とは異なる規制形式、非常に複雑な手続システム、そしてこれはざっくりと、友情の名においてぜひともお願いしたいのですが、時には流通機構から輸入業者に対する差別などもひどく、こういう障害は取り除いて欲しいものです。このシステムは特にイタリアの中小企業にとって大きな障壁となっているのですが、中小企業こそがイタリアの輸出および国際経済における力でもあるのです。

最近行われた研究では、日本と欧州連合間の関税、そして特に輸入規制を撤去すると、現在より 30% ~ 50% まで二国間の貿易が増えると出ています。ですから我々は、これを最重要課題と考え、欧州と日本間で経済統合エリアを作り出そうという現在進められている交渉をぜひともサポートしていくつもりです。さらに欧州が既に韓国とも合意し、来年 7 月 1 日から実現される自由貿易エリアを、日本と欧州間にも実現させたいと思っております。

二国間合意という道は、WTO 内で交渉が進められているものの、思わしい結果が出ていないドーハ・ラウンド成立のためにも必要不可欠だと思います。これにより二国間で新しい、より実りある商業・経済・産業協力関係が生まれ、2008 年と 2009 年の 2 年間の経済不況において貿易縮小されてしまった状況も打開できるでしょう。

今年の前半、正確には今年最初の 9 ヶ月間では、少しずつ取引が増えてきているようです。イタリアの輸出も最初の 9 ヶ月では 5.2% の成長を見せており、非常にいい数字ですが、世界その他の輸出先と比べるとまだまだ低いのです。他の国へは 14% 増という成長です。14% に対し、日本向けが 5.2% というのは 3 分の 1 ほどです。このデータからいえることは、日本向けの成長は特に、このローマ、そしてラツィオ州からの輸出によって牽引されてきました。実際、ローマとラツィオ州からの対日本輸出だけを見ると、なんとその 10 倍以上である 55.7% が今年前半で記録されました。これには様々な要因があります。ラツィオ州、特にローマからの対日本輸出品目の産業

が特に適したものだっただのも一つの要因でしょう。またローマ市がジャンニ・アレマンノ市長の指導により経済発展省と対日本輸出発展プログラムを実現させ、その成果が出たのでしょう。

我々政府としては何をどうやって、やっていくべきなのでしょう。先ほども言いましたとおり、まず欧州と日本間の関税および輸入規制を撤去し、二国間合意を締結するよう促進することがあります。ザッパ会長が先ほど話しておられました、やはり成長の鍵となる分野に焦点を当て、すべての力と資源をそこに合理的に集中させていくことは、ここにいらっしゃる皆さんができることでしょう。最新テクノロジー、ロボット工学、バイオテクノロジー、ナノテクノロジー、再生可能エネルギー、原子力、災害予防、文化遺産保護テクノロジーなどの分野が挙げられると思います。日本はイタリアやヨーロッパより、研究に多額の投資をしています。確かイタリアの4倍以上、ヨーロッパの倍以上、研究への投資を行っていると思いますが、日本はこれらの分野において協力して行くには最も適した国だといえます。中でもエネルギーとシャープのコラボレーションの例では、シチリアに大規模な再生可能エネルギー生産プラントおよびエネルギー製品を作り出すことになりました。私がここでぜひとも推奨したいのは、イタリアおよびヨーロッパがこのプロジェクトを完成させるために最も適した必要なツールを提供することです。先ほど、日本側の政府関係者の方とお話をしたのですが、彼らも政府、或いは省として二国間協力体制をひく用意があると話して下さいました。特に我々にとって重要なのは、皆さんのように日々日本とイタリアの間で仕事をしている企業の持つ経験から、何が障壁、輸入規制としてあり、撤去しなければならないかを見極めてもらうことです。そしてどのようにして日本と欧州が経済統合エリアを作り上げていくかの交渉のテーマとして考えていく材料にしたいと思います。さらに、世界でも豊かで有数の発展した地域、大陸をより意義のある自由貿易エリアにしていきたいと思います。我々の課題としてはこれが一つの例、モデルとなって、少しずつ他の二国間合意、さらにはWTOでの多国間の合意にも広がっていくよう努力することです。

最後にもう一度皆様、そしてアレマンノ市長に退席しなければならないことをお詫び申し上げます。ですけれども、今日イタリアの首都にあるこの素晴らしいホールで皆様が行う会議が興味深い内容となることをお祈り申し上げます。よいお仕事をなさって下さい。